

トーチングロード  
嘶家人生 山あり、谷あり

## 【第48回】

かじかざわ  
鯉沢

✦ 文 林家木りん text by Kirin Hayashiya ✦

僕たち落語家は日本全国いろいろな場所まで落語をさせていただけです。その目的地まで使うのが当たり前ですが、交通機関。

新幹線や飛行機、自動車などで移動するのですが、いつもスムーズに動いている交通機関が天候や停電などさまざまな要因で足止めをくらう時がありますよ。そういう時に限って、喉が渇いたりお腹がすいたりするものです。

そんな緊急事態に遭遇した時のために、旅慣れている落語家はいつも備えておられます。例えばうちの師匠林家木久扇は新幹線に乗る前に東京駅のおにぎりとお茶を買って新幹線に乗り込み、紙袋の中にはチョコや飴玉、お煎餅が入っております。

この準備の良さに驚いていましたが、落語界にはこれを超える猛者がおられます。その名は瀧川鯉昇師匠。師匠は言わずと知れた爆笑派の古典落語をされる方で、いつもニコニコして温和な方なのですが、とても用心深い。

これは鯉昇師匠と名古屋でお仕事した帰りの新幹線。

最初は楽しく話したりお茶を飲んだりして過ごしていたのですが、500mlの半分くらいで急に飲まなくなりました。そのことに別に気にしないで過ごすと新横浜を過ぎた辺りで、師匠は「これで安心してお茶が飲める」と言い出し、「どういうことですか?」と聞いたら「ここまで来れば最悪歩いて帰れ

るからね。僕は生きる延びるためにポケットに常にステイックシユガーを2本持つているんだよ」と当たり前前のお話してくださいました(笑)。

生き延びるためにはこういう準備をしなきゃとしみじみ感じた車窓でした。

何が命綱になるか分からない。今日はその命綱を、ご紹介。

江戸から身延山(現在の山梨県にある日蓮宗の総本山)への参拝へ出た男。帰りに大雪に遭ってしまい道に迷ってしまった。

日も暮れかかってきてこの吹雪、どうにか助かりたいと「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えながら足を進めると、一軒の人家を発見。何とか一晩泊めてほしいと頼み込むと、中から出てきたのはこんな場には似つかわしくない美しい女性。

なんとか家に上げてもらい囲炉裏で体を温めていると、この女性がかつて吉原の遊郭にいた有名な遊女であったことに気づく。女は招待を知る旅人に警戒をするも、悪意がないと知ると身の上話を始める。今は出かけているが、この家の主の獵師と心中をしようとしたが失敗し、この地に流れ着いたという。

女はこのことは江戸に帰っても人に言わないでほしいと頼むと、旅人も吹雪の中で命の恩と秘密を守ると約束し、さらにお礼としていくばくかの金

子を渡す。

その財布の様子を見ていた女、下戸だという旅人は体が温まるからと玉子酒を勧められ、「二口飲むと眠たくなってしまう」。実はこの酒には毒が入っていると外へ。入れ違いに事情を知らない旦那が帰ってきて……。

三遊亭圓朝作の三題嘶「鯉沢」。冬のサスペンス劇場をぜひお聴きください!

林家木りんとかじめ・洋平の今夜は話さナイト

出演 林家木りん、立川かじめ、大西洋平  
毎週木曜日 20:30~21:00  
K-mix (静岡FM) で好評放送中!

radiko プレミアムにご登録いただくと生放送よりお聴きいただけます。静岡エリアの方はradikoにて一週間タイムフリーでいつでも!

## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。  
2009年林家木久扇に入門  
2013年二ツ目昇進。  
身長192cmと、落語協会一の高身長!  
趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。  
空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。  
初の著書『師匠!』発売中

